

平成21年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめ

1 協議題 「生涯学習の振興に果たす社会教育の役割について」(H20・H21)

- 2 会議の経過
- 第1回 平成21年 9月30日 (水) <学校支援について>
 - 第2回 平成21年11月26日 (木) <家庭教育支援について>
 - 第3回 平成22年 1月14日 (木) <地域の教育力の向上について>
 - 第4回 平成22年 3月16日 (火) <協議のまとめ>

3 主な意見

(1) 学校支援について

- ① 自分ができる範囲で、学校のお手伝いをするという感覚でより多くの地域住民が関わっていくことが重要である。
- ② ボランティアは他者のためだけではなく、「自分育て」ともなり得る。
- ③ 地域による学校支援など地域から学校に向かう取組だけではなく、「わくワーク体験」のような学校から地域へ向かう取組も重要である。
- ④ 学校側のニーズとボランティア側との摺り合わせは不可欠であり、スムーズな連携運営のためのコーディネーター養成が重要である。

(2) 家庭教育支援について

- ① 地域のボランティアによる相談体制づくりや子育て仲間が集う場の提供など、身近で安心感のある支援が望ましい。
- ② 子育て支援には、対象である家庭や子どもの具体的な現状を正確に把握することが不可欠である。
- ③ 「しつけとマナー」に関する教育については、家庭が第一義的責任を負うことは言うまでもないが、地域全体で取り組む必要がある。

(3) 地域の教育力の向上について

- ① 地域の教育力を高めるには、様々な機会を通じて、まず地域の大人同士のつながりを強めなければならない。
- ② 地域の活性化や課題解決について、自分でできることは自分でやり(自助)、みんなでできることはみんなで担っていく(共助)という意識が必要である。
- ③ 地域の持つ独自性を大人と子どもが共に認識あるいは発見していくようなふるさと学習(「ふるさとマップづくり」や「地域探検」など)が重要であり、その学習過程で新たな世代間交流の場も生まれる。
- ④ スポーツやレクリエーションなど比較的若い世代が参加しやすい行事を積極的に行うことが地域の活性化を生む。
- ⑤ 子どもたちの公共心やマナーを育むためには大人に対する呼びかけや啓発が必要であり、企業もその役割を担う一つとなり得る。

4 意見のまとめ

社会教育に求められる役割は、地域の教育力を高めていくことである。

地域が持つ力の根幹は「つながり」であり、例えば、誰もが気軽に参加できるボランティア活動、地域の独自性を認識・発見するふるさと学習による世代を超えた交流、スポーツやレクリエーションなど青壮年層にも関心が高い行事等により、住民同士のつながりを強め、また、広げていくことが必要である。

そして、その地域の力によって、学校や家庭との連携を密にしながら、教師や保護者による教育を支援していくことが、地域にとっての重要な役割の一つであり、地域の教育力と言える。

なお、より有機的な連携を目指すには、コーディネーターの養成が不可欠であり、また、学校や家庭への支援を通して、つながりは広まり、支援者自身が成長し、地域の教育力も更に高まっていくという持続性が生まれる。